

献上 カワラケツメイ健康茶

口上書

この健康茶は「思いはあくまで高く、暮らしはシンプルで健康に」をモットーに、幕末の文人が秘境・桃源郷として描いた山口市徳地からの、お殿様・お姫様にも満足していただけの献上品を現代によりみがえらせたものです。原料は、無農薬で除草剤も使わずにいねいに育てた希少なカワラケツメイ百%です。維新の源流となった村田清風の天保の改革以来、長州人は殿様から庶民まで儉約を美德として守り、朝食の茶がゆもカワラケツメイ茶で炊き、藩士も日常の飲料として愛用していました。カワラケツメイ茶とその茶がゆこそは、維新をなしとげた長州人を支えた最強の食材でした。松陰先生、山県有朋など志士たちが非常にやせていたのはこの茶を常用したためではないかという明治時代の証言も残されています（『長州の天下』）。山口県立大学の最近の研究*で、とくぢ産のカワラケツメイ茶は、ポリフェノールを多く含み、抗酸化作用と脂肪吸収を抑えて中性脂肪とコレステロールを低下させる効果があると報告されています。カフェインを含みませんので、年齢を問わず、妊娠中の方にも安心して召し上がっていただけます。藩士の自主性を尊重して任せたため「そうせい侯」の異名があった毛利敬親藩主は、参勤交代で自ら木綿服を着用して儉約の手本を示しました。こうして庶民も藩士も心をひとつにした結果、はじめて回天の維新の偉業も実を結んだことを忘れることはできません。そのことを記念し、とくぢの地からの「献上品」の焼き印をほどこした桐の小箱につめて、藩財政たてなおしの「三白」のひとつ徳地和紙に包みました。今につながる幕末維新の歴史への熱い思いを、維新百五十年を機に新製品として結実させました。

とくぢ健康茶企業組合